

新潟県における 2 チーム分けジャンケンの掛け声の分布

Dialectal Variation in the Words for 'Janken' in Niigata Prefecture.

佐々木 香織*

要旨

本研究は、今後の方言調査のための基礎的データを提供するために、県内で使われている 2 チームに分けるためのジャンケンの掛け声を取り上げ、その地理的分布を記述する。全国的に散見できる掌と手甲を使ったウラオモテ系の掛け声の県内の分布状況についても探る。調査データから作成した分布図から、県内の広い範囲で、グートッパー系の掛け声が分布していたところに、新方言として新潟市東部ではグーロ系が、西部ではグーパー(ハー)系が、そして新潟市をとりまく周辺地域ではグーとチョコキを使うグットッチ(ヨ)系などが進出してきたと考えられる。各語形の伝播の経路や時期を明らかにするには、新潟市周辺地域(出雲崎、燕市、三条市、加茂市、五泉市など)の年代別データが特に重要であることがわかった。また、ウラオモテ系については旧吉田町、上越市で使用例があったが少数だったため、詳細な分布状況や伝播経路などについては今後の課題である。

キーワード：新方言 伝播 ウラオモテ ジャンケン 地域差

0 目的

本研究は新潟市内を中心に、ごく狭い地域間での地域差が明瞭な 2 チームに分けるためのジャンケン(グーパージャンケン)を取り上げ、その地理的分布を記述し、将来の本格的な方言調査のための基礎的データを提供することを目的とする。また、全国と県内における、掌と手の甲を使った 2 チームに分けるための「ウラオモテ」系のジャンケンの掛け声の分布状況等から、各語形の伝播について考察する。

1 調査データ

本研究のための調査データのインフォーマントは、2009 年~2011 年度の本学 3 年生で日本語学を受講していた学生である。新潟市およびその周辺地域が生育地の情報文化学科の学生が多く、比較的言語や文化に関心の高い 20 代前半の若者と言える。男女比はおおよそ 1 対 2 であるが目立った男女差はなかったのでここでは扱わない。2 チーム分けのジャンケンについての調査データは、筆者が授業中に行った上記の学生を対象にした記入式アンケート調査で得られた 208 名分のデータである。

2 研究史

2 チーム分けジャンケンの掛け声に関する方言調査は、各種の文献(注 1)のほか、インターネット上にも散見できる(注 2)。分布状況を継続的に調査することで、言葉の伝播の様子をつぶさに観察することができるため、注目すべき言葉の一つだと考えられる。通常のジャンケンと異なり

* 非常勤講師

(注3)、これまでにマスメディアで流れることがほとんどなかったことから、地域独自の言い方が数多く見られ、県や市などの行政区画よりさらに狭い範囲でのみ出現する変種も数多く存在している。また、子どもの集団での遊びの中で使われる言葉であり、転校生などのもたらす新しい言い方が採用されることで、非連続的な分布を示すこともあり、言葉の伝播を探るのに非常に興味深い。全国的に、断片的なデータはかなり集まっているようだが、各語形の具体的な伝播の過程や各語形の発生源などはわかっていない。

都染(1999)によれば、1990年代初頭に大阪や東京では使われていなかったウラオモテ系のグループ分けの方法が、神戸の中年層で広がりを見せているとの報告があり、インターネットや学生の情報から、仙台、名古屋、福井、三重、広島、熊本などにも分布していることが指摘されている。また田中(1999・ホームページ)からは、ウラオモテ系を使うという人が九州に多く、中年層にも使用者がいることや、山口、広島、岡山、兵庫でも使用者がいることがうかがえる。ただし、40代以降の投稿者が少ないため、使用者が多い九州で昔から使われていたのかについては、さらに調査が必要だろう。加古(2008)でも使用者の年齢は不明だが、ウラオモテ系の掛け声は、九州に多いことがうかがえる。

新潟県内でも一部の地域で散発的にウラオモテ系の使用が見られるが、これらがどのような経路で伝播したかは、今後の調査をまたなければならない。

3 新潟県における普通のジャンケンの掛け声の分布について

普通のジャンケンの掛け声は、現在は全国的に「最初はグー、ジャンケンポン(またはポイ)」が多く使われている。新潟県内のジャンケンの掛け声の分布については別に譲るが、主に現在50代以上の人が子どものとき(1960～70年代頃)には「ギッチャンエ」、「チェローエス(またはヤス)」、「ホーライヤ」、「ホーレンヨーセ」などを使っていたことが、本学の学生のレポート(注4)から伺える。また外山(1999)には、1978年当時、加茂市の高校生だった人が小中学校のころ(1960年代後半～70年代)には「ホーレンヨーセ」、「ホーリンヤ」、「ホーリンエス」、「ギッチャンエ」も使っていたとの調査結果がある。外山(1999)によれば、多数派は共通語形のジャンケンポイ系と、当時の関東でも使われていた「チッケッタ」や「ジッケッタ」等のようだが、1970年代は、まだ地域ごとに特色のある掛け声も使われていたものと考えられる。これは、「最初はグー」で始まるジャンケンの掛け声が、テレビにより大流行するのが1980年代に入ってからであることや、同じく外山(1999)には、「最初はグー」で始まる例が、1993年に柏崎市の高校生が中学校のとき(1980年代末～90年初頭頃)に使っていたと報告した例と、高校で使っているという例の2例のみであることからもうかがえる。

現在、新潟県内では、40代以上でも、「最初はグー」を言う人も多く、それに続く部分は多くが「ジャンケンポン」系であることが、前述の学生のレポートからもうかがえる。流行語がほぼ全国共通語になった例だと言えるだろう。

4 新潟県における2チーム分けジャンケンの分布

新潟県における分布と言っても、本調査のインフォーマント208名のうち、生育地が新潟市のものが138名と圧倒的に多く、新潟市とその周辺以外の地域については、今後詳細な調査が必要である。また2チーム分けジャンケンの掛け声は、「隣の小学校区では全然違う言い方をしてい

て驚いた」との学生からの報告もあり、伝播の状況を探るには、理想的には学校区ごとに、グロットグラム調査のような年代別データが必要であろう。本調査の結果から新潟市とその周辺を中心に、県内の2チーム分けジャンケンの掛け声の現在の分布を明らかにし、外山(1999)も参考にしながら各語形がどのように伝播したか考察していく。

4.1 新潟市における分布

初めに新潟市内における2チーム分けジャンケンの掛け声の分布を図1(注5)に示す。本調査の208名のデータのうち、生育地が新潟市の138名について、区ごとにグーロ系、グーパー(ハー)系、グットツパ系、グットツチ(チョ)系の4系統10種類に分類して示した。もとの語形と、それぞれをどのグループ(記号)に分類したかは6.資料に示すが、回答語形が多種に及んだので、例えば「グーロ、グーロ、グーロッパ」、「グーローグーローグーロッパ」、「グーロッパ」は同じグループ(▲)にするなど、ここではごく大まかに分類して表示してある。

図1から、新潟市東北部はグーロ系が、西南部は「グーパー」及び「グーハー」系が優勢であることがわかる。グーロ系の掛け声は、中央区の小学生は現在も使っているし、筆者が中央区在住の現在40代の数人に聞いたところ、子どもの時から使っていたという。遅くとも1980年頃にはすでに「グーロ」系が使われていたと考えられる。「グーロ」以外聞いたことがないという人もいるくらい浸透している地域もある。ちなみに本調査の東区のインフォーマント32人中31人がグーロ系である。

外山(1999)によれば、明確に2組に分けるジャンケンであるという記述がないものの、1978年当時、加茂市の高校生が小学校(小須戸・現新潟市秋葉区)のとき、つまり1970年代に「ごーろとば」という掛け声を使っていたという記録がある。これが新潟市南東部を経て中央部に入り、「グーロッパ」になった可能性も考えられる。

かつては新潟市ではなかった西蒲区(旧西蒲原郡)、秋葉区(旧新津市)などでは、グーとチョキを使った「グーチグーチグッチッチ」や「グートチョ」が見られる。これら地域では、その周辺との関連も調べる必要があるだろう。現在の新潟市をはじめ、県内の行政区画はいわゆる平成の大合併で、従来の区画との違いが大きく、こうした行政区画の変化が言葉の分布にどのような影響を及ぼすのかについては、早急にデータを集めて分析する必要がある。そこで、データは少ないが、次に県内の分布についても見ていく。

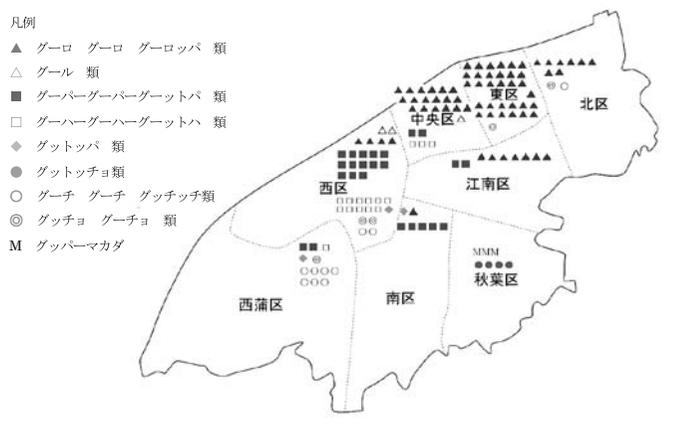
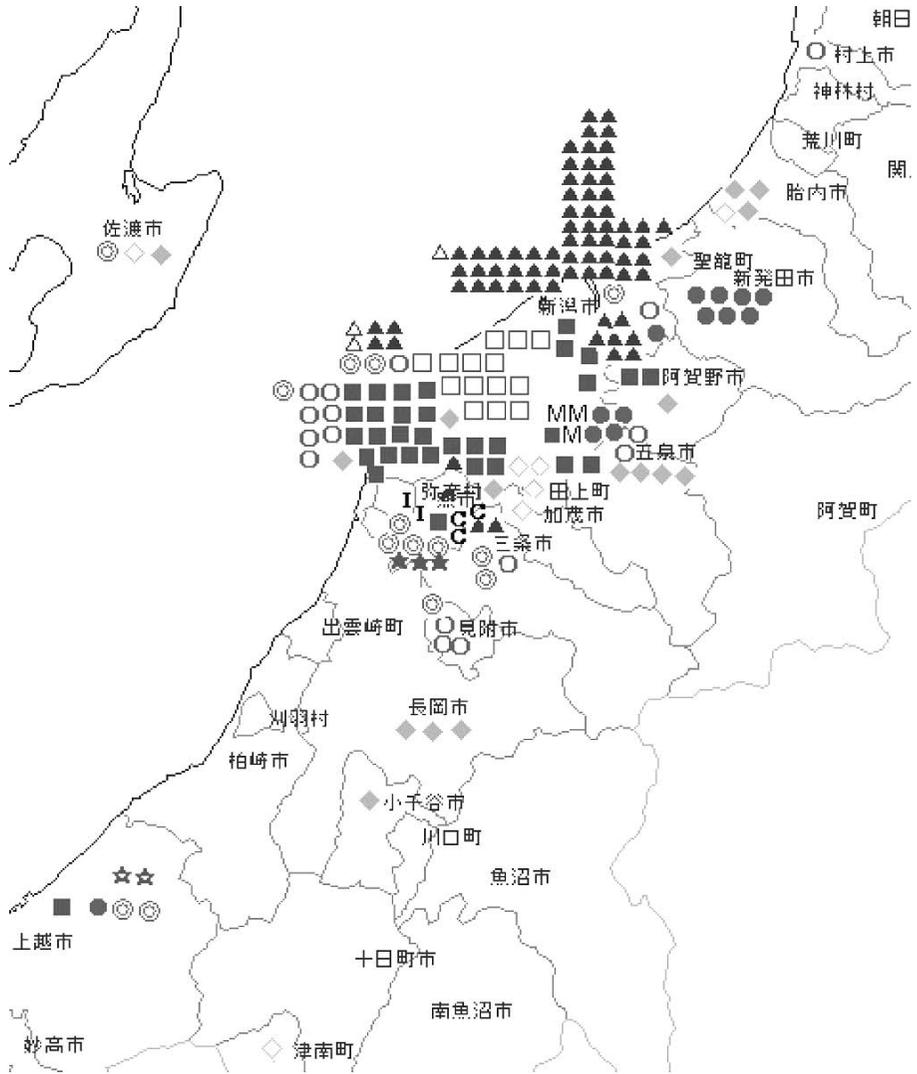


図1 新潟市における区ごとの2チーム分けジャンケンの掛け声

4.2 新潟県内の分布

図2(注6)は、全207名のデータのうち分類できなかった6名の回答(資料ではsで表示してある)を除く、201名の回答をインフォーマントの生育地の市町村域に示したものである。



凡例	▲ グーロ グーロ グーロッパ 類	△ グールパーラ 類
	■ グーパーグーパーグーットハ類	□ グーハーグーハーグーットハ類
	◆ グットツパ類	◇ グートハ類
	● グットッチ(ヨ) 類	○ グーチ グーチ グッチッチ類
	◎ グッチョ グーチョ類	C チョーパ
	M グッパーマカダ	I イシハサ
	★ ウラウラウラウラ ウラオモテ	☆ ウラオモテ アーエバ

図2 新潟県における市町村別2チーム分けジャンケンの掛け声

図2から、新潟市内はグーロ系、グーパー（ハー）系で占められ、その周辺にグットツパ系とグットツチ（チョ）系が分布していることがわかる。グットツチ（チョ）系のうち、新発田市のインフォーマント7人中6人が「グットツチ」（1人は「グトチ」と記入したのに対し、新潟市秋葉区は「グートチョ」または「グートーチョ」等であった。また、丸（●、○、◎）とI（「イシハサ」）の地域は、グーとチョキを使う地域で、上越方面にも使用者がいることが分かる。

各使用語形をより正確に生育地上に示したら、このような分布になるわけでないことを断っておかなければならないが、各語形の分布を行政区域ごとにごく大まかに見ると、「グートパ」や「グットツパ」など、グーとパーを使うタイプが新潟県内に全域に広く分布していたところに、グーとチョキを使うタイプが旧新潟市を囲む形で西南から広がり、旧新潟市では「と」を略したグーパー系や、さらに「パー」が「ハー」に変化したグーハー系とグーロ系がせめぎ合って分布しているように見える。このことから、新方言として新潟市東部ではグーロ系が、西部ではグーパー（ハー）系が、そして新潟市をとりまく周辺地域ではグーとチョキを使うグットツチ（ヨ）系などが勢力を伸ばしているのではないかと考えられる。それぞれの語形が、どの地域のどの年代から広まっていったのかは、さらなる調査が必要である。

調査手法も時期も違うが、参考までに外山(1999)のデータを図2に加えたものが図3である。

外山(1999)の「じゃんけんことば集」(P89-93)に挙げられたジャンケンの掛け声から、1993年当時、柏崎地域（旧三島郡、刈羽郡、柏崎市、中頸城郡）の高校生の内省で、小中学校のとき（1980年代）の2チーム分けジャンケンの掛け声として記録されたと語形を、便宜的にグーチョキ系とグーパー系に分け、グーチョキ系のみ報告がある学校（西山中、二田小、出雲崎中、西越小、石地小）のおおよその位置を@で、グーパー系のみをXで、両語形の記載がある学校（柏崎市立南中、柏崎市立西中通中＝現柏崎市立瑞穂中、高柳中、柿崎中、刈羽中、長岡市立北辰中）の位置をxで地図上に示した。この図3は報告のあった学校を、地図上の市町村内に示したもので、特に柏崎市内の記号Xとxの位置と各学校の位置とは一致しないが、@の学校の位置は、図3で示すように全て刈羽村より北の柏崎市と出雲崎町内にある。

以上から、1980年ごろには柏崎市や刈羽村、出雲崎町では、「グートチョ」や「グーチョ」などが使われていて、これらが周辺の三条市、見附市、新潟市西蒲区などへ広まっていったのではないかと考えられる。本調査のデータでは柏崎市や長岡市のデータが少なかったため、現在の分布はわからないが、グーとチョキを使う2チーム分けの伝播を探る上で、興味深い。またこれらと、新発田市のグットツチや秋葉区のグートチョとの関係についても、阿賀野市、五泉市、加茂市、三条市のデータを増やして検討すべきだろう。

山田(2007、P14)は、岐阜・愛知県のチーム分けジャンケンの掛け声の分布から、「うらおもて」が最も古い語形ではないかと述べているが、新潟県内では現在ウラオモテ系は少数派のようで、本調査では、上越市の6人中2人が「ウラオモテ アーエバ」を、燕市の13人中3人が「ウラウラウラウラ ウラオモテ」を使うと答えただけである。特に後者は「旧吉田町で使われていて、燕市でも他の地域では使われていない」との情報が複数の学生から寄せられており、もともとあった言い方ではないらしいことは、40代以上の人を対象にした学生のレポートからもうかがえる。また、外山(1999)にも1993年当時柏崎の高校生がグーパー系やグーチョ系の掛け声とともに、柏崎市内中学校（東中、第五中、北条中いずれも柏崎市の内陸側）で「ウラオモテ」を使っていたという報告があるが、いつ頃どこから入ったのかなどは現時点ではわからない。

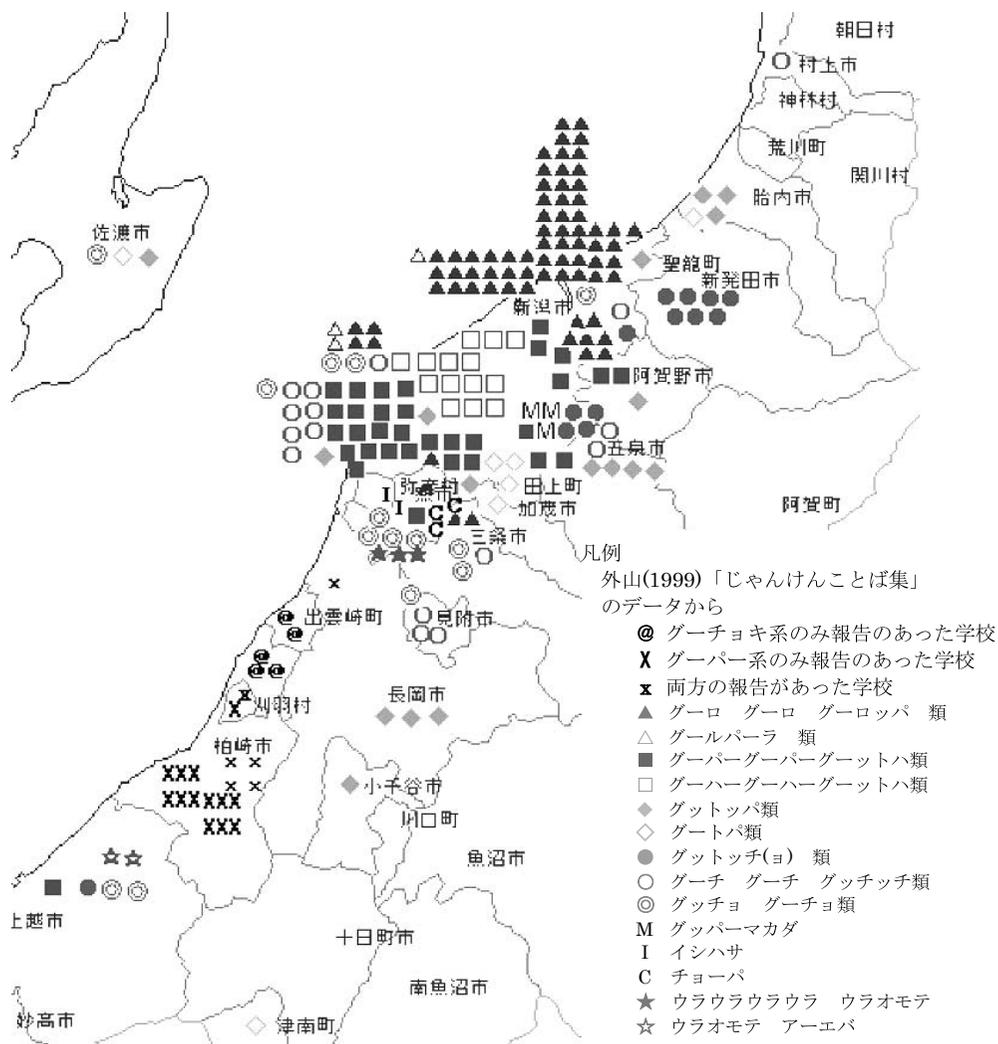


図3 図2に外山(1999)のデータを加えた分布図

5 今後の課題

これまで見てきたように、新潟市に隣接する燕市、五泉市、田上町、加茂市、三条市などの年代別データを集め、新方言と思われるグーロ系、グーパー系、グーチ(ヨ)系の分布を観察することで、各語形の伝播の様子がより明らかになると考えられる。また、ウラオモテ系の分布やその伝播過程はまだわからないことが多い。人口が多く、人の移動が比較的多いとされる長岡市、柏崎市、上越市などの都市部を調査することで、より詳細な2チーム分けジャンケンの分布図を描くことができ、ウラオモテ系を使うインフォーマントが含まれる可能性も高くなるだろう。これらも今後の課題とする。

特に興味深いのは、燕市である。これまでの調査で14人のインフォーマントから5系統(そ

の他を入れると6種)のバリエーションが得られた。合併前の旧吉田町、旧分水町、燕市の境界と各語形の分布がどうなっているか調査したい。

6 資料

2チーム分けジャンケンの掛け声として回答のあった語形と地図上の記号の対照表を生育地別に北から順に示す。記号sは分類できなかったため、地図上に示さなかった。

生育地	語形	記号	秋葉区	最初はぐーぐとちよ	●
村上市	ぐーっち	○	秋葉区	ぐーとちよ	●
胎内市	ぐーとっば	◆	北区	ぐーろっば	▲
胎内市	ぐーとば	◇	北区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
胎内市	ぐとっば	◆	北区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
胎内市	ぐとっばー	◆	北区	ぐーろぐーろぐーろっば	▲
聖籠	ぐとっばー	◆	北区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
新発田	ぐとっち	●	北区	ぐーろー	▲
新発田	ぐとっち	●	北区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
新発田	ぐとっち	●	北区	ぐとちー	●
新発田	ぐとっち	●	北区	ぐーちっち	○
新発田	ぐとっち	●	北区	ぐーろぐーろぐーろっば	▲
新発田	ぐとっち	●	江南区	ぐーろっば	▲
新発田	ぐとち	●	江南区	ぐーろ	▲
北蒲原	ぐーどーばーやっ	s	江南区	ぐーろっば	▲
阿賀野市	ぐーうば	■	江南区	ぐーろぐーろぐーろっば	▲
阿賀野市	ぐとっばっ	◆	江南区	ぐっばーぐっばーぐっばーえす	■
阿賀野市	ぐーば	■	江南区	ぐーろぐーろぐーろっば	▲
五泉市	ぐとっば	◆	江南区	ぐーろぐーろぐーろっば	▲
五泉市	ぐーとっば	◆	江南区	ぐーろっば	▲
五泉市	ぐーちーだ	○	江南区	ぐーばーぐっすりじゃす	■
五泉市	ぐーちーだ	○	東区	ぐーろ	▲
五泉市	ぐとっば	◆	東区	ぐーろー	▲
五泉市	ぐとっば	◆	東区	ぐーろっば	▲
秋葉区	最初はぐー、ぐっばーだ	■	東区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
秋葉区	ぐーとーちよ	●	東区	ぐーろっば	▲
秋葉区	ぐっばまかだ	M	東区	ぐーろぐーろぐーろっば	▲
秋葉区	ぐーとちよ	●	東区	ぐーろぐーろぐーろっぐ	▲
秋葉区	ぐっばまかだ	M	東区	ぐーちよぐーちよぐーちよっばっ	◎
秋葉区	ぐっばまかだ	M	東区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲

東区	ぐーろ	▲
東区	ぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろ	▲
東区	ぐーろ	▲
東区	ぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろーぐーろーぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろ	▲
東区	ぐーろぐーろ	▲
東区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろ	▲
東区	ぐーろーぐーろーぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろーぱっ	▲
東区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろーぐーろーぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろぐーろーぐーろっぱ	▲
東区	ぐーろー	▲
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐっぱーぐっぱーぐーつとば	■
中央区	ぐーはーぐーはーぐーつとは	□
中央区	ぐーろーぱっ	▲
中央区	ぐーはー	□
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろぐーろぐーろーは	▲
中央区	ぐーろーぐーろーぐーろっはっ	▲
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろぐーろーぐーろっぱ	▲
中央区	ぐるはらぐるはらぐーろーは	△

中央区	ぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろぐーろーぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろっぱ	▲
中央区	ぐっぱ	■
中央区	ぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーはー	□
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
中央区	ぐーろ	▲
南区	ぐーろぐーろぐーろっぱ	▲
南区	ぐっぱーや	■
南区	ぐっぱ	■
南区	ぐっぱー	■
南区	ぐーぱー ぐっぱーや	■
南区	ぐーつとぐーつと ぐーつとぱ	◆
南区	ぐーぱー ぐっぱーや	■
西区	ぐーろっぱ	▲
西区	ぐーぱーぐーぱーぐーとーはっ	■
西区	ぐーぱーぐーぱーぐーろっぱ	■
西区	ぐーはーぐーはーぐーつとは	□
西区	ぐーちよーぐーちよーぐーちよーえす	◎
西区	ぐーつち	○
西区	ぐーはーぐーはーぐーつとは	□
西区	ぐーはーぐーはーぐーつとは	□
西区	ぐーつちよっぱ	◆
西区	ぐっぱーのーぐっぱのぐっぱ	■
西区	ぐっパーのぐっパーのグーパッ	■
西区	ぐーはー	□
西区	ぐーつちよ	◎
西区	ぐーはーぐーはーぐーつとは	□
西区	ぐーるっぱーらぐーるっぱ	△
西区	ぐっぱのぱ	■
西区	ぐーるっしよ	△
西区	ぐっぱーじゃす	■
西区	ぐーはーぐーはーぐーはーやす	□
西区	ぐーぱーぐーぱーぐーとぱっ	■
西区	ぐーつぱっ	■
西区	ぐーはーぐーはーぐーつとは	□

西区	ぐっばーぐっばーぐーとば	■
西区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
西区	ぐーはーのぐーはーのぐーは	□
西区	ぐっばーぐっばーぐーろっば	■
西区	ぐっばのば	■
西区	ぐーはーぐーはーぐーととは	□
西区	ぐっば	■
西区	ぐーばーぐーばーぐーとばっ	■
西区	ぐっば	■
西区	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
西区	ぐーはー	□
西区	ぐーろーぐーろーぐーろーばっ	▲
西区	ぐーはーぐーはーぐーはーやす	□
西蒲区	ぐーつつ	○
西蒲区	ぐーばーぐーばーぐーうっば	■
西蒲区	ぐーちよぐーちよぐーうっちよ	◎
西蒲区	ぐーちぐーちぐーちち	○
西蒲区	ぐーととぐーととぐーととば	◆
西蒲区	ぐーばーぐーばーぐーばっば	■
西蒲区	ぐーちち	○
西蒲区	ぐーっば	■
燕市	うらうらうらうらうらおもて	★
燕市	ちよーば	C
燕市	うらうらうらうらうらおもて	★
燕市	ぐーちよ	◎
燕市	うらうらうらうらうらおもて	★
燕市	いしはさ	I
燕市	ちよーば	C
燕市	いしはさ	I
燕市	ぐーちよ	◎
燕市	ぐーちよっば	◎
燕市	ぐーっば	■
燕市	最初はぐー、じゃんけんぽん	s
燕市	ちよーば	C

燕市	ぐーちよ	◎
田上町	ぐーばーぐーばーぎっちよんえす	■
加茂市	ぐーととばっ	◇
加茂市	ぐーとばー	◇
加茂市	ぐーば	■
加茂市	ぐーととばっ	◇
加茂市	ぐーととばっ	◇
三條市	ぐーちよでじゃーんけん	◎
三條市	ぐーとみー	s
三條市	ぐーりーはーさー	s
三條市	ぐーろーぐーろーぐーろっば	▲
三條市	ぐーろっば	▲
三條市	ぐーちーはーさみ	○
三條市	ぐーちよーはさみ	◎
見附	ぐーちーえす	○
見附市	ちーぐーっしよ	s
見附市	ぐーちーば	○
見附市	ぐーちーえす	○
見附市	ぐーつつちよ	◎
長岡	ぐーととば	◆
長岡	ぐーととば	◆
長岡	せーの	s
長岡	ぐーととば	◆
小千谷	ぐーばっば	◆
津南	ぐーととば	◇
上越	ぐーちち	●
上越	うらおもてあーえぱっ	☆
上越	ぐーっばっ	■
上越	うらおもてあーえぱっ	☆
上越	ぐーちち	◎
上越	ぐーちちよっば	◎
佐渡市	ぐーととんば	◆
佐渡市	ぐーちよでじゃーんけんじゃんけんほい	◎
佐渡市	ぐーとばー	◇

7 謝辞

本調査に協力してくれた本学の学生と学生の調査に協力して下さった皆様に心から御礼申し上げます。

注

注1 古くは『言語生活』152号(1964.5、P70-76)誌上での、子どもの遊びに関することばの共同研究の呼びかけ以降、同153号(1964.6、P88)、同157号(1964.10、P93)、同159号(1964.12、P94)などにジャンケンについて記述が見られる他、都染(1999)や山田(2007)などの研究がある。

注2 <http://homepage3.nifty.com/docchi/janken-p.htm> 甲南女子大学兼任講師の田中千晶氏ホームページには全国のジャンケンの掛け声が投稿され、県別にまとめられている。

<http://www.freeml.com/wefree/say/gupa/?sid=982397f2ecc699e73ec69640ccb96023>

ウィフリ調査団、<http://kotobakai.seesaa.net/article/8173628.html> ことば会議室(道浦俊彦)、

<http://www.hira2.jp/archives/50282762.html> 枚方つーしん「枚方グーパー分布図」などにも2チーム分けジャンケンの掛け声についての調査がある。

注3 テレビタレント志村けんにより「最初はグー」から始めるジャンケンが1980年代から全国的に流行したため、現在ではほぼ「最初はグー、じゃんけんぽん」が共通語形になっている。

注4 2011年度の日本語学受講学生に課題として取り組んでもらった、40代以上の知人5人以上に、生育地と子どもの頃使っていた普通のと、2チーム分けのジャンケンの掛け声のレポートである。他県のインフォーマントや指定した年代でないインフォーマントも含まれたものもあったが、県内の中高年のジャンケンの掛け声について調べるための予備的なデータを得ることができた。

注5 <http://www.freemap.jp/> 白地図専門店のウェブサイト『白地図、世界地図、日本地図が無料』の白地図を利用して作成したものである。

注6 <http://www.craftmap.box-i.net/japan.php> Craft Map 都道府県別地図の白地図を利用して作成したものである。図3も同様。

参考文献

加古 里子(2008)『伝承遊び考 4 じゃんけん遊び考』(小峰書店) P.256-264 (特にP.263-264「しろくろじゃん」の項目)

田中千晶(1999-2004)ホームページ <http://homepage3.nifty.com/docchi/janken-p.htm> じゃんけん掛け声(二手に分ける)県別一覧表

都染直也(1999)「方言の近未来を予測する一兵庫県南東部方言のグロット部ラムから」月刊『言語』(大修館書店) P.66-73

外山正恭(1999)『ことばの落ち穂一話しことばの資料集 I 1960-1998』(越佐の方言資料室 松だんど)

山田敏弘(2007)「岐阜・愛知の若年層方言について1—遊びのことば・学校のことば・オノマトペ—」岐阜大学教育学部研究報告人文科学第56巻第1号(P.11-41)